



白川郷をのんびり  
旅行する  
矢口隼人の休日

矢口隼人

## 白川郷をのんびり旅行する矢口隼人の休日

---

2013年平成25年、久しぶりの9月の休日、岐阜県は白川郷を旅行すると、どの観光場所も混雑していた。3連休はどこもこんな風に混むのはしかたないと思った。しかし実は観光客の志向によるものだった。

### 白川郷をのんびり旅行する矢口隼人の休日

矢口隼人

「普段マイカーが立寄らない無名穴場スポットにまで観光客が大勢いるなんて」

2013年平成25年9月14日（土）、岐阜県大野郡白川村保木脇にわたしはいた。帰雲城趾碑前でわたしは鮭おにぎりとしぐれおにぎりをほうばりながらほうじ茶を飲む。青空のなか、白い雲がまぶしく、風が冷たくすずしいというか、すがすがしい。ほうじ茶を飲みながら「あー久しぶりの休日、時を気にせずのんびり過ごすひと時」一人になれた開放感はいあわせな気分であった。

登場人物      出版社担当者→浅山佳世子      出版社専属担当者→北脇美智世  
編集長→横田      宿の女将      旅行者→矢口隼人

#### 原稿の締切り

2013年平成25年9月12日（木）、夕方4：00「第3世代」を書き上げた。

矢口：これでいいだろう、完成だ。

出版担当者：分かりました先生、完結おめでとうございます。次の作品「青い流星」は。

矢口：完結じゃない、つづくだ。期日の5日前に完成したんだから、次のことは考えたくない。旅行に行く。

担当者：どちらへ？

矢口：ラオス。

担当者：ダメです、海外は。

正直ストレスが爆発しそうだ。現地をこの目で見なきゃストーリーを書きたくない。

矢口：輪島（輪島の朝市）。

担当者：時間がありません。

ムカムカ！、ムカムカ！

矢口：白川郷だ。

担当者：……。いいでしょう。で、どちらへ。

矢口：ひらせ温泉キャンプサイトを取って（予約して）くれ。星空観測がしたい。週末の天気も調べてくれ。

担当者：分かりました。おつかれ様でした。

担当のみっちゃんは、完成した原稿をUSBメモリーに詰めて社に戻った。

あー、終わった。このストーリーは書いていてほんと面白かった。まだ興奮冷めやらないが今は、脳を休息したい。忙しければ忙しいほど、いちばんやりたい欲求が高まる。

星空観測をしたいとしながら見るものは、人工衛星の通過を観たいのである。

小学校の時に夜、学校の滑り台の上であお向けになり星を眺めていた。星一つ一つが微妙に動いていた（じつは目の錯覚だった）のを憶えている。

10年ほど前、平瀬の白弓スキー場で夜、流れ☆と、人工衛星、夜間飛行機？を観た。

台風のため

6：00、携帯電話のスタートレックの着メロが鳴った。

担当者：北脇です、おつかれ様でした。構成を確認してもらってます。

矢口：分かりました。

担当者：それで、週末は台風18号が近づいていて金土日とも雨が曇りだそうです。

ってことはキャンプ場で星空観測だめってことか。諦めるしかないないか。

矢口：それじゃー、平瀬で温泉のある宿を取ってくれ。

担当者：分かりました。私もお伴します。

返事をせず切った。

星空観測は次の機会にしよう。それと飯ごうで自炊を楽しみたいというのも久しりにやりたかったが仕方ない。

宿満室

夜7：00、スタートレックの着メロが鳴った。

担当者：今週3連休で平瀬の温泉宿満室で、一軒も空いてません。

矢口：一部屋も空いてないの？

担当者：空いてないんです。温泉のない木谷旅館に一部屋空いてます、どうしますか？

矢口：温泉がないならダメだ。

担当者：どうしましょー？

っと、泣きそうな声でみっちゃんが訴えてきた。

矢口：じゃー、白川郷で泊まれる宿わたしがあたってみるから、みっちゃんこんな時間まで骨折ってくれてありがとね、それといつも美味しいお弁当ありがとう。みっちゃんの愛情いつもたっぷり受取っているから。

担当者：ええー・・・、宿決まったら知らせて下さい。私も行きます。

どこに泊まるか

さて3連休か、はやり宿は満室で確保できないかもしれない。どこかないか。下呂、高山、奥飛騨温泉郷の深下荘の川の露天風呂に入りたいが満室に決まっている。5年ほど前白川郷、平瀬で泊まった夕日屋旅館に電話してみる。

矢口：お久しぶりでございます。帰雲（かえりくも）の調査をしている矢口ですけど、14日（土）一部屋空いてますか？

宿の女将：あー矢口さん、お久しぶりですねー、お元気ですか？土曜日はいっぱい（満室）で空いてないんです、すいませーん。

矢口：そうですか。どうしても平瀬の温泉宿で泊まりたかったんですけど、どこも満室で。

女将：そうですか。昨年辺りからお客さんが増え始めて最近は土日もいっぱいなんです。

矢口：そうなんですか。どうも分かりました。

デスクワークで両ひざが痛く最初は筋肉痛と思ったが、どうも関節痛か神経痛かも思った。母の母（おばあちゃん）がひざが悪かったので、とうとうわたしもそうでないかと思った。

吉報あり

8：30、電話あり。

宿の女将：夕日屋（旅館）ですけど矢口さん、先ほど一部屋キャンセルがありましたので、土曜日よろしければお泊りになられますか？

矢口：えっ、わたしにいいんですか。

女将：はい、どうぞ。

矢口：それでは、14日（土）大人一人でお願いいたします。

はなっから、みっちゃんを連れて行く気などない。

女将：分かりました、お待ちしております。白川郷のお話聞かせて下さいね。

矢口：はいわかりました、お願いいたします。

あー、助かったー。リフレッシュできる。なんで宿の女将さんわたしに振ったんだろう。

出版社編集長の企み

2年前、横田編集長と呑みながら話をするなか、わたしの女性の好みをつぶさに聞いてくるのではないか。なにかおかしいなと思っていた。出版社から担当者が来た。浅山という細身の女性だ。

浅山担当者：細身の女性が好きなんですねー。

好きな女性には好きとストレートに言うが、好きじゃない女性にはひねくれた言い方をする。

矢口：ふっくらしたより細身がいい。

浅山：じゃー、私なんかどうですか？

余りにもさっぱりしている性格はきれいなので逃げてごまかした。

矢口：今は女性に興味ない、書くのに集中できなくなる。

浅山：芸能人では誰が好みですか？

矢口：（真剣に思い浮かべながら）伊藤つかさ、畑中葉子、黒瀬真奈美だなー。

浅山：どういうところがいいのですか？

矢口：伊藤つかさは、弱弱しいところが守ってあげたいと思う。畑中葉子はベビーフェイスで可愛い。黒瀬真奈美の恋想曲のPVが愛らしく待つ姿がかわいい。

浅山：そうなんですかー。ご結婚は？

この女性突っ込んでくるなーと、うっとおしくなった。ぶっきら棒に。

矢口：結婚すると筆が走らなくなる。それと縛られたくない。それと冒険はまだ終わらない。

浅山：えっ、・・・、あ一分かりました。失礼します。

浅山担当者が社へ戻った。

#### 編集長の口説き

横田編集長と呑みながら思った。いまどき58歳の編集長が会社に残って（在籍）いるなんてめずらしい会社だなーと不思議だった。

横田編集長：いい小説を書くにはいい環境が必要ですよ。

矢口：そうですね。たまには旅行して、連れ合いがいて。ですが今までの苦い経験や冒険心がわたしのベースでもあります。

と、反論した。

横田：いやそういう意味でなく、もうそろそろ落ち着いてもいいんじゃないだろうか。

あら、そっちかと思った。

矢口：しあわせな環境に置かれると、鋭い感覚が溶けちゃいます。

横田：そんなことはないだろう。矢口さんもいつか落ち着く日がくるのを覚悟していたはずですよ。

胸に刺さった。涙が込み上げてきた。

矢口：どうしろというんですか？

横田：僕はあと2年で退職です。この会社の体制も古く、もうすぐ作家に専属担当者が無くなる予定です。わたしの最後の仕事として矢口さんに相応しい担当者を付け（紹介し）ようと思います。もちろんあなたの理想の担当者を今さがしています。

矢口：（今までの苦しい生き方に胸が込み上げて何も言えなかった）

横田：（次の専属担当者を連れてきても）いいですね？

矢口：はい、お願いいたします。

横田：あー、よかった。

矢口：年貢の納め時ですね。

横田：もう納めて下さい。

矢口：（涙ながらに）はっは。

なんで親切にしてもらえるのだろうか？

襲撃さる

9月13日（金）朝10：00、久しぶりの休日チャイムが鳴らずのんびりと起きた。

10：03、電話が鳴った。

北脇：おはよー、これから行くね。

わたしが起きる時間まで把握している。

矢口：来るな！

もう、電話は切れていた。あー、休みの日まで縛られるー。だから女性はイヤだ。居留守は通じない。わたしがめんどくさがりやで外に出ないこともバレている。

10：30、チャイムが鳴った。無視した。ドアがガタガタして。

北脇：もーう、開けてよ！

笑えてきた。ドアを開けた。

北脇：もーう！！（プン！プン！）

笑った。

北脇：何笑っとるの！

がははははっ。

北脇：お弁当作ってきたよ。（2人分ある）

矢口：おー、ありがとう。

みっちゃんの作る料理はほんと美味しく天下一品である。料理本をみて研究して味付けも相手好みに合わせて申し分ない。結局、上がり込まれた。

北脇：それで宿は決まったの？

矢口：まだ。

北脇：うそッ！

女性の勘は鋭いのか、わたしの表情がごまかせないのか。

北脇：どこに泊まるの？

矢口：白川郷。

北脇：どこ？

矢口：宿。

北脇：どこー！！

矢口：どっか。

北脇：もー！！、何で連れてってくれーへんの！

矢口：一人がいい。

北脇：・・・、仕事じゃないから私を連れてってくれるでしょ。

矢口：次の仕事の前に一人でのんびりしたい。

北脇：私がいたらじゃま？

悲しそうな表情をみられない。うーん、ここいらで折れるしかないか。

矢口：土日は一人にさせてくれ。あと（の時間）はみっちゃんのすきなように予定立てればいい。（残り2日間、がんじがらめか、しかたない）

北脇：やったー、やったー。

正直、わたしの手の内を全て知られているようで、してやられたような気がする。

北脇：で、これからどうする？

矢口：買物。

### 女房気取り

11:00、バロースーパーにて。飲料4本、土曜夜の酒とおつまみを買う。げげー、彼女が幸せいっぱい笑顔で夕食の食材を取っている。一緒に食べるんかよー。女房気取りかー。

昼、家で狭いテーブルで彼女が作ってきた美味しいお弁当を食べる。

矢口：卵焼きおいしー。味付け申し分なし。

北脇：ふふっ。

矢口：みっちゃんの手料理食べれるの、しあわせだなー。

彼女は、ニコニコしている。

北脇：明日の予定は？

矢口：明日は、のんびりした時間をくつろぐ。御母衣ダム堰堤で景色→帰雲城趾碑前でおにぎり2個→平瀬で中華そば昼食→平瀬鉦山跡自然水汲み→ひらせ温泉キャンプサイト見学→道の駅飛騨白山で足湯→平瀬宿入り露天風呂。

北脇：そう、何時に出る？

矢口：10:15か、10:30。

と、ウソをついた。

### 追い返す

夕方、彼女に

矢口：家の掃除洗濯しておいでよ。

北脇：明日でいいの、夕食作る。

矢口：夕食はわたしが作るから、家の掃除して、部屋汚いの嫌いだよ。

北脇：うーん、・・・。

矢口：姫、家きれいにしておいで。

北脇：うーん・・・、じゃー、帰る。明日（白川郷に）着いたら電話してね。

するわけがない。夕食も作らせず返した。夜、買ってある食材をそのままに塩ラーメンとライスで済ました。

#### 専属担当者来る

浅山担当者が来て1ヶ月したところで、交代のわたし専属の担当者がやって来た。

10:30、ピンポン。

矢口：（ドアを開ける）どうぞ。（かわいい女性だが無表情で上げる）

専属担当者：初めまして、これから矢口先生の担当させていただきます北脇と言います。どうぞよろしくお願い致します。

うわー、ほんとうにかわいい。黙っていられず。

矢口：ほんと、かわいいですね。あっ、矢口ですどうぞお願いします。

担当者：これ、原稿持ってきました。修正お願いします。

っと、USBメモリーを受取った。

矢口：分かりました。じゃー待っている間、その辺の本でも見てて。

ほっぺたかわいいな、たしかに畑中葉子そっくりのベビーフェイスだ。いかん、集中できない。打ち間違いばかりしている。

矢口：いまだきなんで、原稿をメール送信しないんだろうね。

担当者：分かりません。編集長はいつも先生と直接お話ししてきなさいと言います。

矢口：そうですか。

担当者：お昼の仕度しますね。

矢口：おそれ入ります。

#### 初日2人の昼食

11:55、昼だ。この出版社では担当者が食事を作り2人で食べるのが日常となっている。いただきまーす。ありきたりの卵焼き、ソーセージ、ホウレン草、肉じゃが、みそ汁だ。

矢口：（黙々とおかずを食べる）

担当者：どうですか？お味。

好きな女性には正直に言う。

矢口：うまいっ。ソーセージ、スパイスの微妙さが絶妙で美味しい。卵焼き、わたしには薄過ぎる、もう少し濃いほうがうれしい。ホウレン草、うまい。肉じゃが、すきじゃないが肉の臭味がなくおいしい、普通の人が食べると美味しいと言うはずだ。みそ汁、合わせみそは普段食べない、赤みそか郡上味噌だ、だがこの合わせみそはダシがよくとってあるし、あぶらげわかめほうれん草の具が小さくもなく大きくもなく食べやすいサイズに切っているし、おいしい。

担当者：どうですか、卵焼き味薄かったですか、すいません。

かなり高得点で誉めたつもりだが、彼女はがっかりしている様子だ。



矢口：それとここにある料理、愛情が入っているのが分かりうまかった、毎日食べたい、ご馳走様でした。（自分で言っておいて照れて席を立った）

彼女、顔が赤くなっていた。

初日おわる

矢口：終わったよ。（USB原稿を渡す）

担当者：ありがとうございます。

彼女は社に戻った。なんとなくほんのちょっぴり気の強そうなところもありそうな気がした。また生命力の弱弱しい乙女であるようだ。

のんびり旅行

9月14日（土）AM9：00、リュックとクーラーBOXを積み、出発した。あー、見つからずに済んだ、やれやれだ。コンビニを左折するところで、右折待ちの「おやー黒い車」運転手を見ると友人のI君だった、隣に奥さんも。向こうも気づいた、手を上げる。「おおー」めずらしいこともあるなーと、にこにこした。

車は数日前、車内ガラス水拭き新聞で空拭き、フロントガラスレインX、ライトは濁っている、ヘッドライトクリーナーを塗って、タイヤ空気圧を1.9にした。そしてなつかしのTVドラマアニメのCDを搭載した。コーヒーを飲みながら、1曲目ガードマン、→キーハンター→Gメン75を聴きながら、リラックスして国道156号線郡上街道を北走る。

のはずが

9：55電話だ、無視する。すぐにメールが入った。

北脇：「なんで、私を連れてってくれーへんの？ シュン ; ;」

相手の出方など分かっている。朝乗せていたら4日間の守りとなるのはご免だ。無視した。あーよかった9：00に出発して。

またメールだ。

北脇：「昼のお弁当どうするの？ おいしいよー 食べたいでしょ^^」

無視した。なんか胃が不愉快になってきた。彼女今頃泣いているだろうが気にせずアニメ009を聴きながら忘れる。まかり間違っても車で追ってくることはないだろう。

のんびり走行する

外気温25°、曇りからはれ。3連休とあって走行する車が50～60キロでおそい車がいると覚悟していたが、運よく流れは65キロといい方である。白鳥町を通過、高鷲（町）を過ぎて唯一の追い越し車線があるところでわたしはゆずり車線に入り45キロで後続車4～5台を行かせた。今日のはのんびり走行したいのである。ほんとのんびりと走行を楽し

んでいる。ひるがの高原を過ぎて荘川（町）→牧戸交差点で信号待ち。なにやら外からカーステの音楽のような音が聞こえるがよく分からない。左折するとそれは祭りの音だった。

左手に、厚みはないが直径1 m以上の太鼓に20～30人の姿が見えた。今日は荘川祭りのようだ。岩瀬橋上空でスモールライトを点けた。道路幅の狭い古いトンネル3ヶ所を通過した。右手に御母衣湖ドライブインを横目にのんびり走行する。次は右手に荘川桜だ。

おやー、荘川桜駐車場にマイカーが20台ほど駐車している。今日は何かイベントでもあるのだろうか。尾神橋を通過。しばらく走行して御母衣ダム堰堤南になる右手駐車帯にマイカーが20台以上停車してある。こちらの車を駐車帯に停めた。北に歩き堰堤へ。

なんでこんなにダムの見学者が多いのだろう。ここはトイレや売店もなく普段見学する人がいない穴場名所である。3連休だから賑わっているのか。薄青いポールをつかみ堰堤から北の景色を見るが雲っていて稜線が望めない。写真を撮らず車に戻る。

北へトンネルを過ぎ、下り坂。右カーブを回り左下にMIBOROダムサイドパークがある。駐車場に車が多い、今日は何かあるのか。左カーブから長い下りの直線。そして左手に旧遠山家民俗館がある。駐車場も車でいっぱいだ。何かがおかしい。走行して右手に道の駅飛騨白山がある。ここもマイカーが40～50台ぐらい停まっている。平瀬を通過して保木脇に向かう。今日は荻町に行かない予定である。道路右に「帰雲城埋没地」の看板が見えた、右折する。ここも車が多く15台ほど停まっている11:36。

#### 風が冷たくすずしい（白川村保木脇）

観光客を横目に、白川村保木脇の帰雲城趾碑脇でわたしは鮭おにぎりとしぐれおにぎりをほうばりながらほうじ茶を飲む。青空のなか、白い雲がまぶしく、風が冷たくすずしいというか、すがすがしい。ほうじ茶を飲みながら「あー久しぶりの休日、時を気にせずのんびり過ごすひと時」一人になれた開放感はいあわせな気分であった。冷たい風を感じながら昼ねをした。

#### 昼食中華そばが（白川村平瀬）

国道156号線を南に走行し、平瀬小学校となりの喫茶しょう松へ。メニューをみるが中華そばがない。おかしい、入る店を間違えたのか。仕方なく焼きそば定食（850円）を注文。ごちそう様でした12:30。

#### 平瀬鉱山跡 朝霧の水（良質自然水）（白川村長瀬）

平瀬小学校となりの庄川の橋を東へ越して左、そしてすぐ右に平瀬鉱山坑口跡から流れる朝霧の水（自然水）が流れている。自然水が冷たい、顔をあらう。

#### ひらせ温泉キャンプサイト（白川村長瀬）

朝霧の水より左下を進んだ奥に、キャンプ場がある。停めて、サイト内を見学する。丘

の芝生にバンガロー2棟あり。コンロテーブル付のAサイトあり。森林サイトあり。ひらけたサイトあり。外灯は数基しかなく、星空観測をするなら、ひらけたサイトであろう。

一家族がAサイトでテントを張っている。次回キャンプする場所（ひらけたサイト）を確認した12:50。

コーヒータイム（白川村平瀬）

再び喫茶しょう松へ、アイスコーヒー（350円）を注文。時間に追われた旅行でないので、ほんとくつろぐ。ただポーっとする。というより今回はだいぶ時間をもて遊びそうである。道の駅で足湯にはまだ時間がはやい1:20。

再び保木脇へ（白川村保木脇）

今日は、行動範囲を保木脇、平瀬と限定しているので行く場所がほんとなし。北走り帰雲城趾碑へ。車やバイクが停まっている。再びのんびりする。ハーレダビットソンのおじさんに声をかける。

矢口：今日は世界遺産荻町合掌造り見学（旅行）ですか？

ハーレ：いえ、帰雲城（の場所）を見にきました。

矢口：えっ、この場所を見にきたのですか。

ハーレ：ええ、世界遺産荻町合掌造り集落は前に来たことあるので。

矢口：そうですか、帰雲城だけを見にきたとは。

ハーレ：前から興味あったので今日はじめてここに来ました。こんな道路（国道156号線）脇にあるとは思わなかったですよ。

矢口：そうですか。

見学している家族をみると、60~70代くらいである。逆に子供連れの家族はいない。2:15。

平瀬で聞取り（白川村平瀬）

平瀬に戻り、わき道に入り昔の話を聞くことにしよう。

矢口：なんか台風のとくに御母衣ダムが放水して平瀬大変やったと聞いたのですが？

おじいさん：52（昭和52年）台風か、すごかったわー。

矢口：一人亡くなったんですね。

おじいさん：おう、庄川に舟見に行ったら行方不明になったで、御母衣ダムの放水止めて、庄川探したけど見つからなかった。こらえきれずに放水してどえらい水の流れで平瀬の堤防壊れたわ。

矢口：放水で一人亡くなったと思いましたけど違うんですね。

おじいさん：台風の雨で増水したで舟見に行ったら行方不明になったんや。

積雪8m以上？

矢口：そうだったんですか。56（昭和56年）豪雪はすごかったんですね。

おじいさん：自衛隊来た。電柱の上まで雪あった。

矢口：電柱の上までですか？そんなに積もったんですか？

おじいさん：ああ、2階の屋根埋ったで。

矢口：確か白川村の本（白川村史）に4.5m積もったと書いてあったと思いますが。

おじいさん：そんなもんばかりやないぞ。

矢口：そうでしたか。じゃー、カンジキ履いて雪かきしたんですね。

おじいさん：カンジキなんか埋ってダメやった。

矢口：えー、カンジキでも（歩くの）ダメだったんですか。

おじいさん：あー、自衛隊来たけどあまりの雪（の量）に使いもんにならんかったわ。

矢口：そうですか。あの一、餓死した家はあったんですか？

おじいさん：ほんでも（自衛隊）よーやってくれた。（家々には食料蓄えあるので）そんな家はなかったわ。

矢口：そうだったんですか。ほんとうに電柱上まで雪あったんですか。

おじいさん：あったあった。（他の証言からも平瀬の積雪が事実と分かった）

矢口：そうですか。そういえば来週火曜からどぶろく祭り平瀬から始まるんですね。

おじいさん：そうや、平瀬→木谷→荻町→鳩ヶ谷→飯島や。

矢口：来週月曜日からどぶろく祭りやるんですか？

おじいさん：いや、火曜からや。

矢口：月曜はやらないんですか？

おじいさん：日にちが決まっとるで火曜からや。

矢口：そうなんですか3：30。（平瀬は土日関係なしで日にちで祭り行いうらしい）

## 昭和の現実（暗い過去）

次に民家裏で作業をしていたおばあさんに聞く。

矢口：あの一、昔の平瀬歩危（道）のことをお聞きしたいのですが？

おばあさん：はあい。

矢口：今平瀬のトンネルの右に昔平瀬歩危があって板の上を歩いていたと聞いたのですが？

おばあさん：歩く分（幅）だけのトンネル（隧道）があった。

矢口：そんな小さなトンネルがあったのですか。

おばあさん：あった。

矢口：分かりました。それと冬は（ここ平瀬から）牧戸に行くのは自動車でしたか？

おばあさん：冬は車通れんで歩きやった。

矢口：そうですか。じゃー冬に牧戸から北濃まではすごい時間かかったのですか？

おばあさん：冬は牧戸朝出て北濃は夕方や。

矢口：そんなに時間かかったのですか。

ここから話がえらく反れた。

おばあさん：ほんで北濃から汽車乗ってわたしら16（才）の時、名古屋で女工（仕事）したわ。奉公先で後ろから抱きつかれて犯されそうになったわ。次の奉公先でも犯されそうになったわ。

矢口：そんなことがあったのですか。

何でこんな話をされるのだろうか。話によると昭和16年頃で、これが昭和の現実なんだと知った。そういえば確かに昭和は、差別→貧困が当り前にあった時代だった。

道の駅飛騨白山の足湯（白川村平瀬）

そろそろ時間的に足湯に行こう。道の駅飛騨白山到着。売店となりの足湯で一人が抜けたので、靴靴下を脱いで足湯に入る。あったかーい。少しでも足を温泉に入れて両ひざの故障を療養したいのである。子供連れの家族が来た。子供が足湯に入る。6人程度座れるスペースが塞がった。

矢口：今日はどちらを回って（旅行して）きたのですか？

家族旦那：世界遺産（荻町合掌造り）を見てきました。

矢口：そうですか。今晚はこの横の平瀬温泉宿に泊まるんですけどここで足湯に入ります。

旦那：そうですか。うちはこれから牧歌の里で宿泊します。温泉あります。

矢口：そうなんですか。温泉あるんですか。

家族が長いしていたので結局30分足湯に入っていた。ぼかぼかで気持ちいい。

これでようやく宿に入るいい時間となったのである。道の駅を出て平瀬の旧道（町並み）へ。なんか歩いている観光客多いなー。

旅館入り（白川村平瀬）

平瀬の夕日屋旅館到着4：15。クーラーBOXから飲料酒を出してリュックに放り込んで宿入り。

矢口：こんにちは、今日はお世話になります。

宿の女将：おまちしておりました。

矢口：一部屋いただいてほんとありがとうございました。

女将：いいえ。

矢口：さっそく温泉よばれてきまーす。

女将：どうぞ。

青空のなかで温泉露天風呂

4：20ごろ、温泉露天風呂にどぼん。あー、「外の空気を感じながらまだ空は明るく青い白い雲を見上げながらの温泉ってなんて贅沢なんだろう」、しあわせだなー、まんきつ。正面をみるとキャンプ場が見える。夕方とあり、数台の車がうかがえる。浴室で頭と身

体を温泉湯で洗いました、露天風呂に入る。「あー、しあわせー」。風呂をでるとき湯水ですぐと温泉の効力がなくなるので、温泉湯を全身にかけて拭く。脱衣所でぽかぽかになった身体の汗を引くために何度も何度も拭いた。ようやく身体がすずしくなった。

### 恐怖の人影（女性の怨念）

5：00、ゲタを履き旅館に戻るとき、道路の南北をみると車の通りがなく静かなものである。道路脇で平瀬の昭和の気配が残るたたずまいをみながら感じるものを感じている。遠くの南に人が、背が低い、女性だ。いやーな予感がはしった。そそくさと旅館に入っ  
て、2階からそーっと、道路を覗いた。まだ人影はない。部屋に戻り、テレビも付けず寝  
転がった。今くつろぐというより、忍び寄る何かを感じている。20分ほどして、通りで  
大きい声が出た。「見いーつけたっー！」 2階からそーっと覗くと、ヤツがわたしの車を  
のぞいている。げげーっ、車かよ、そこまで隠すことはできんぞ。ヤツが旅館に入っ  
てきて大きな声で「矢口さんいますかー？」。 みっちゃんだ。

女将：はい、おいですよ。

北脇：連れ愛ですけどおじゃまします。

誰が連れ愛や。

女将：そうですか、どうぞ。（と2階に案内した）

わたしは2階の廊下で固まっていた。

女将：御連れさんです、矢口さん（廊下で）どうされましたか？

わたしは目が点になっていた。

### ご対面

北脇：来ちゃった。（ニコニコ^^）

無言である。だが、クーラーBOXを抱えている姿を見てわたしは、元々体力のないひ  
弱な彼女が無理していたにも関わらず、屈託のない笑顔をみて、哀れでならない、言葉を選  
び。

矢口：あっ、女将さんありがとうございます。（彼女に）帰れ！

北脇：帰らなあ〜い。

わたしは、彼女のクーラーBOXとバックをもぎ取り部屋へ案内した。

矢口：温泉に入る用意して行っておいで。

北脇：はいっ、先生5：30。

1階で女将にもう一人宿泊追加をお願いして、夕食6：30で頼んだ。部屋に戻り、あ  
と一人の時間はせいぜい20～30分かと思った。窓下池に水が流れる音を聞き入った。

あー、ストレス開放するために時間を気にせずのんびり旅行に来たのに、これから徐々  
にストレス溜まっていくぞ。帰りは2人か。（しょぼんである）

### 温泉上りの彼女

北脇：先生！温泉いただきました6：15。

彼女はわたしの専属担当者である。担当者であり、彼女であり、もしかしたら女房気取りの時もあるようだ。浴衣姿の彼女は、なで肩で首が妙に色っぽい。ノンメイクもわかい。

矢口：露天風呂よかっただろ。

北脇：よかった、さいこーっ。

矢口：ほんところ（平瀬の温泉露天風呂は）くつろげるんだわ。で、昼は食べたの？

北脇：食べてない。だって昼一緒に食べたかったから。

彼女はクーラーBOXからランチを出して見せた。

矢口：たまごサンド、わたしのすきな。

北脇：でしょう、ふふっ。

わたしはふと、我に帰り言った。

矢口：（わたしは）白馬に乗った王子様じゃない。

北脇：ふ～ん。（疑問形）

#### 彼女の作戦

北脇：携帯着信見てっ！

矢口：あっ、（みっちゃんからの）着信200回以上。（背筋が凍った）

北脇：何で出んかったの！！

矢口：（みっちゃんとの約束で）今日明日は一人の日だ。

北脇：・・・、でもさびしい。

矢口：決め事は守れ。

北脇：・・・。

下から、「お食事どうぞ」の声があった。

#### 二人の夕食

6：40、1階食事場所大広間へ。今日は満室で各家族がもう食べていた。わたしたちはビールを注文。食台の向こうは彼女、とホホ。「かんぱーい」、うまい。ノンメイクの彼女もかわいい。メインは飛騨牛のしゃぶしゃぶだ。季節とあってなんとわたしの好物の「みょうが」が煮魚と、添え物に刻み添えてある。あー、うれしい。

北脇：（大きな声で）先生！今日はどこ回っていたんですか？

矢口：御母衣ダム→帰雲城趾碑→平瀬鉦山跡朝霧の水→ひらせ温泉キャンプサイト見学→聞き取り調査→道の駅飛騨白山で足湯。帰雲城趾碑で昼寝。

北脇：昼ねしたんですか、いいなー。

彼女にビールを注いだ。今日無茶をしてここまで追ってきた彼女は、ほんと疲れているはずだ。

矢口：で、今日はわたしの家に何時に行ったの？

北脇：9：50ころ。

矢口：（わたしが）いないのなら家に帰ってのんびりすればいいのに。

北脇：だってもうお弁当作っちゃったもん。

矢口：自分で食べればいいじゃない、「寂しがりやさん」。

北脇：・・・・・・・・。

彼女のいちばん嫌いな言葉を言ってしまった。兄弟おらず一人で食事するのが寂しいらしく、一家団欒は唯一食事のときであり、だから料理に没頭執着するようになったらしい。彼女の料理は愛情満載である。「寂しい」は禁句である。

作戦分析

矢口：ここまで何（鉄道？）で来たの？

北脇：バス。

あら、バスがあったな。してやられた。彼女は車をここまで運転してきても、帰りも運転する元気がないことは分かっていた。ちょっと待てよ。輪島なら絶対彼女は追いかけてこれない。ってことは白川郷でOKでたのは、彼女の罠にはまったのか、わたしは。

矢口：どうやって？

北脇：白鳥まで行って、白鳥～牧戸、牧戸から平瀬で降りた。

矢口：平瀬に着いたのは何時になった？

北脇：3：30ころ。

矢口：で、キャンプ場に行ったんだ？

北脇：うん。喫茶しょう松で聞いたら昼に来たって。

矢口：（しょう松に）寄ったよ。それから1軒1軒宿を訪ねたんだ？

北脇：うん。

矢口：クーラーBOXとバック持って平瀬を歩いたの？

北脇：うん。

携帯の着信履歴をみる。4：00ごろ、4分、6分、2分、1分間隔だ。彼女の小さなひ弱い身体でクーラーBOXとバックを持ち歩くのは無理のはずだ。愛情溢れる彼女ここまでわたしを頼ってきたんだ。裏返すと執念怨念の行動は末恐ろしい。ふと思った。彼女は誰かに愛情を注ぎたい性分か？

矢口：じゃー今、（疲れて）クタクタだ。

北脇：平気。

矢口：歩いて筋肉つかうと気持ちいいよ。今どんな気分？

北脇：なんか、さわやか、気持ちいい。

彼女の行動パターンが分かった、学習して次は襲撃を防ごう。普段毎日2人で過ごしているのに今更ここであれやこれやと話すことなどない。ま、言葉のかけ引きはお互いひねくれたり、愛情たっぷりですぐに普段楽しんでいる。



ここに泊まった理由を聞く

となりで夕食をしている老夫婦に割り込んでみた。

矢口：あ、どうも、今日はどちらか来られたのですか？

老主人：金沢からきました。

矢口：そうですか、世界遺産（荻町合掌造り集落）は見学されましたか？

老主人：はい、見学してきました。

矢口：展望台から集落を見られましたか？

老主人：えっ、展望台ですか。

矢口：はい、展望台から合掌集落が一望できる場所があります。

老主人：そうですか。行けばよかったか。

矢口：そうですね。それからここに来られたのですか？

老奥さん：昼を合掌でして、それからきうん城を見て、朝霧の水飲んで、キャンプ場を見て、道の駅に寄ってからここに来ました。

矢口：そうですか。かえりくも（帰雲）城も寄られたのですか？

老主人：はい、この紙に書いてある通りのコースで今日は旅行していますわ。

紙をみせてもらおうと、二泊三日のコースが書いてあった。これはと思い、デジカメで1枚撮らせてもらった。みっちゃんに寂しそうな目がかまってよと合図しているが無視する。

矢口：ひらせのキャンプ場はどうでしたか？

老主人：広々してきれいだし今度は孫を連れて来たいですわ。

矢口：そうですか。満天星空観測と人工衛星通過も見れますよ。

老夫婦：うわー、いいですね。

矢口：ところで、今日はこの夕日屋旅館に泊まれたのは、やはりこの紙に書いてあるのを読んで決めたのですか？

ツアー旅行の盲点

老主人：そうですね。温泉があるし、安いし、有名じゃないし、どこか（昭和の）懐かしいたたずまいが私達にはこれがいいんですわ、な。

老奥さん：そうですね。料理も（昔どこの家庭でも食べた）懐かしい味だし、私もうツアーの天ぷら、さしみ、お肉や毎回同じ料理はご免だわ。

老主人：そうだな、個性がないし、まずいな。それと、時間で縛られた旅行はもうご免だ。はいこれ観て、はい次これ見せられて、時間がないからここは通過。

老奥さん：ほっほっほっ。

矢口：じゃー、旅行をしているんじゃないかと、旅行会社に旅行をさせられていたんですね。

老主人：そうだね、今までの旅行は、旅行見させられていたんだなー。今考えれば窮屈だったなー。

老奥さん：それと旅行はやはり、地図をみて計画して持ち物用意して、宿を電話で予約

して、地図をみて行くのがいちばん楽しいと気づきましたよ。

老主人：そうだね、今回はカーナビに行き先一切入れずに地図をみながら走ってきたけど考えて想像しながら走るの楽しかったな。

老奥さん：そうね、私達もう観光名所は行ったからいいの。あまり有名でない場所を見学して、看板もトイレもお土産売場もなくもいいの。

矢口：そうですか、じゃー明日御母衣ダム見学されるのですか？

老主人：そうそう、行くよ。

矢口：看板一つないですけど、景色がいいですよ。

老奥さん：それぞれ、景色がよければうれしいわ。

老主人：私達は年金暮らしで時間は有余っているから急いだ旅はしなくていいんですよ。前は金沢→白川郷→高山宿泊→金沢の一泊二日の旅でしたけど、今日は、金沢→白川郷宿泊→高山宿泊の二泊三日でのんびりした旅行なんですよ。

矢口：そうですか、じゃー1時間や2時間ぐらいおそくなっても気になりませんね。

老奥さん：それどころか、3～4時間途中下車しても大丈夫ですよ、ほっほっ。

矢口：そんなにのんびりくつろいだ旅行されているのですか。

老主人：はい、ゆとりの旅をしていますわ。

矢口：あ、そういえばその紙っていつ読まれたのですか？

老主人：これが、2年前に娘からもらったんだが、今までツアーばかり参加していて、ようやく今この紙の通りコースを回りゆとりの旅を楽しんでおりますわ。

矢口：そうでしたか。どうもおくつろぎのところ失礼しました、ありがとうございます。

## 一筆

7：30、彼女のご飯を食べていた。私のご飯をよそってもらい食べる。仕事の見聞題材だと彼女は口を挟まない。大広間はわたしたちだけとなっていた。

矢口：あー山菜づくしおいしかった、ごちそう様でした。

女将がきて、

女将：矢口さんよければこれに何か書いていただけませんか？

色紙だ、それも横長の。

矢口：いいですよ、何かいろいろな色のマジックありますか？

女将：絵の具ならありますけど。

矢口：水彩ですか、いいですね。

絵の具を用意してもらった。何を書こうか。日光旅行の。この白川郷は昔京都の流ちょうな言葉が入ってきている。争いが絶えなかった地だ。色紙下に猿を3匹書く。言葉遊びは、「何もみとらんし 何も言わんし 何も聞いとらん」名前は「へのへのもへじ」

矢口：こんなものですがいいですか？

女将：うわー、かわいい、色まで付けてもらってどうもありがとうございます。

矢口：今日一部屋ご無理いったお礼になれば。

女将：いえ、こんないい絵描いて下さってうれしいですわ。ところで、お連れの方は？

矢口：あー、出版社のわたし専属担当者の北脇さんです。

北脇：北脇です。今日は突然私宿泊お願いして申し訳ありませんでした。

女将：いえ。そうでしたかー、えっ。（彼女じゃないの？）

矢口：ドタバタしながら二人で楽しくやっています。

女将：そうでしたかー。明日の朝食は何時にしましょう。

矢口：8：00でお願いいたします。

恐怖の時間迫る

8：15、部屋に戻ると彼女が布団を敷いて2枚ピタリと寄せて並べた。わたしはすぐに布団の間を少し離れた。ズズ。

北脇：なにー！ もーう。（っと言いながらまた布団を2枚ピタリと寄せた）

無視してテレビをみる。

矢口：「星の おうじ さ まー」（と歌ってからかった）

北脇：なにっ！

料理をしていない時はただの焼きもち女である。

矢口：「もしもーわたしが家を建てたならー 小さーな一家ーをー 建てーた」

彼女は真剣な表情になった。いつまでも夢を見ているか弱い女である。彼女から一緒になってとは絶対言っていない、「待ち続ける」乙女だ。

北脇：それで。

矢口：わたしはまだやりたいことがある。山の中で独りで死ぬかもしれん。わたしはそれでしあわせだ。死ぬときは独りだ。

北脇：・・・、男ってほんとわがまま！

矢口：たまごサンド明日食べれるかなー。

北脇：（腐っているか）分からない。

矢口：帰りに「みょうが」買うから、作ってくれる？

北脇：いいよ。

矢口：お腹まだぼんぼんだ。

今晚は曇りで気温が下がらず室内が23～24度で蒸し暑いかもしれないと思ったが網戸から冷たい風がけっこう入ってきてすずしい。しばらく2人静かにテレビを観ていた。彼女が歯を磨きにいった。窓を閉めカーテンをする。

暗闇で

9：30、2枚ピタリと寄せた布団を離すのがめんどくさい。二人布団に入る。電気を消して真っ暗にした。

北脇：電気（ナツメ球）付けて。

矢口：真っ暗やないと寝れん。

北脇：暗いのいやや。

矢口：暗いのがいい。

北脇：いや。

仕方なく手を握ってやった。彼女のリンスの匂いと温もりが柔らかい。しばらくするとやはり身体が熱ってきた。温泉の効力で身体が熱るのかと思ったが、温泉のない宿でも同じく寝ると身体が熱るってことは、温泉は関係ない。ではなぜか。アルコールが原因だろう。手を解いた。腕を絡ませてくる。熱いので解く。

北脇：もう！

矢口：熱いわー。

北脇：さむい。

矢口：熱い。

上布団を少しはねた。夜中、熱りはなくなった。

明け方

少一しさむいぐらいで、彼女の布団に侵入してリンスのいい匂いと、少しの汗の匂いと、温もりと、柔らかさを感じながら寝る。

9月15日（日）朝の露天温泉風呂

北脇：おはよ～。

目が覚めるとわたしのおでこに、彼女のおでこがくっついていて。

矢口：おはよう。

北脇：露天風呂いこっ。

2人、歯を磨いて、露天風呂に行った7：10。とにかくまずはざぶーん。湯加減がぬるくなくちょうどいい。

矢口：あー。（朝っぱらからの露天温泉しあわせだなー）

立って正面のひらせおんせんキャンプサイトを見ると、昨日より車テントの数が多い。あー、星空観測したいなー、と思う。女性風呂のサッシを開けてみっちゃんが露天風呂に侵入してきた。

北脇：わー、気持ちいいー。

今朝は曇りで今にも雨が降りそうである。そういえば彼女と一緒に露天風呂入るのはじめてだなー。いま横にいる彼女の存在が気にならないほどごく自然な感じである。気がねない連れ合いか。

矢口：（無言）

ふと、彼女の正面になり、両肩を撫でた。すべすべした肌の感触。ここで男性脱衣所から数人の声が。

北脇：いやー。（と言って女性風呂に戻りサッシをバンッと閉めた）

そして、男性3人が露天風呂に入ってきた。わたしは元気になる前に温泉を上がった。

さわやかな朝食

7：50、1階大広間で朝食。しゃけ、郡上みそ汁、のり、いか（みょうが刻み）、とうふ、サラダなど品数が多い。かといって食べれない品数でない。

矢口：いただきます。

北脇：いただきまーす。

そういえば思いましたが、この宿でこの朝食のサラダ皿をみてなぜかしあわせを感じるのである。以前は欲張って宿の朝食ではご飯3杯（膳）を食べてお腹いっぱいになり苦しんでいたが、ここではご飯2杯とし、最後にこれといって特長のないさっぱりしたサラダを食べてしあわせな気分でごちそう様ができる。たぶん、この宿は女将のこと細かい思いやりが豪華ではないが随所にこもっているかもしれないと思った。

矢口：（郡上）みそ汁おいしい。

北脇：そんなにおいしくない。

矢口：みそ汁は好みがあるから。

北脇：そうね。

矢口：サラダ最高。

北脇：どこが？

矢口：一人分食べれる量、レタスハムの添え方、どれも目立つものはないが、この皿になかに女将の心遣い、やさしさが込められているのが分かる。何よりも品がある。

北脇：そうかなー。こんなの私だって作れるもん！

彼女は料理の味に関して絶対的にうるさい。

矢口：マヨネーズをドバツとかけてあればいいもんじゃない。ただミドリと赤と黄が映えていればいいわけじゃない。時には豪華さも必要だが、おしとやかさや品も必要だ。

北脇：できるもん！

矢口：山盛りのサラダか。

北脇：もう！

矢口：美的センスか。

北脇：美味しけりゃ、いいの。

矢口；あー、サラダどえらい美味しかった、ごちそう様でした、しあわせだなー。

北脇：ふん！　　ふんっ！

彼女はいつまでも尾を引くタイプじゃないので、心配はいらない。部屋で荷物をまとめて1階に下りる。「お世話になりました」。彼女のクーラーBOXとバッグを車に積む。こんなきゃしゃな身体で彼女昨日は無理したなー。車に乗りわたしは助手席のドアを開けた。彼女が幸せいっぱいの笑顔で助手席に乗った。宿の女将が見送るなか平瀬を出発した。

宿出発南へ（白川村平瀬）

8：50、雨の降るなかキャンプ場でテントの片付け大変だろうなと思う。幸せっぱ

いの笑顔の彼女を乗せて、国道156号線を南へ。正面御母衣ダム堰堤を見ながら上りの直線へ。御母衣ダムはロックフィルダムと言ってもよく分からない。岩を積み上げて岩の隙間に水が漏れないように粘土で固めてあるのがロックフィルダムだそう。右カーブ。左カーブ。広くなったトンネル。過ぎて左手駐車帯がある。今朝もマイカーが10台以上停まっている。やはり、トイレもお土産売場もない名所観光が穴場スポットなのか。そういえば昨日から観光バスをみていない。観光バスは金沢→白川郷→高山宿泊であろう。バスツアー観光客はなんとも与えられた見せられた旅行をしているのだろう。

#### 白鳥物産センター（郡上市白鳥町）

わたしたちは御母衣ダムを通過→御母衣湖ドライブイン→荘川→牧戸右折→ひるがの高原。ここでひるがの高原に寄ろうと思ったが、彼女は観光地やお土産に興味ないので知っていたので、白鳥町まで走行した。雨は止んで曇りである。白鳥物産センターで休憩10:00。郡上みそ（700円）とほうばずし（3葉 450円）を購入。車に乗ると彼女は無口である。わたしも無口である。

#### 待つ姫

彼女は午後の紅茶を買う。南へ走行。曇りとあって暑くならずエアコンを付けるまでもない。知らぬ間に彼女は寝ていた。あどけない表情、どうみても白馬に乗った王子様を待つひ弱い姫という感じだ。

#### たまごサンド

彼女の家の前でクーラーBOXとバックを降ろす。

矢口：おつかれ様でした。たまごサンド食べれるかなー。

北脇：（クーラーBOXを開けて）ん、臭う、ダメだ。

矢口：そうか、わかった。じゃーゆっくり休んで。

北脇：はいやすみます。

矢口：（明日祭日）月、火は一人で過ごすから。

北脇：行ってもいいですよ。

矢口：来るな。

北脇：行くっ、露天風呂の続きしてないから。

矢口：別の機会にサービスするから。

北脇：明日じゃだめなんですか。

矢口：今5日間の休日で心を休めている。

北脇：行きたい。

矢口：次の休みに全てをあげるから。

北脇：ほんと。

矢口：1日中いよう。

北脇：ほんとおつ。

矢口：雲隠れするかもしれん。

北脇：もーっ！

自宅で

2：10、リュックを降ろし書斎のクーラーを付ける。あー。

夜

出前一丁とほうばずしを腹に放り込む。デジカメで取った写真をPCに移す。3枚しか撮っていなかった。2枚は道の駅白山からひらせ温泉キャンプサイトを撮った写真。1枚は宿で紙を撮った写真。旅行コースを撮った写真をプリントアウトした。

金沢—白川郷—高山 2泊3日のコース

平瀬の宿で老夫婦から見せてもらった紙（旅行コース）は次の通りだ。

.....

金沢—白川郷—高山 2泊3日 時間を気にせずゆとりのマイカー旅行コース

昨今有名観光地を旅行して慌ただしく帰るコース、楽しい思い出は残っていますか？

特に日帰りや1泊2日では有名観光地に行ったというだけの形になっていませんか？

今やどこの観光地も環境整備が充実していて、トイレお土産売場が完備。案内板も親切であれやこれやと至れりつくせりの環境の観光地。視点を変えらうんざりかもしれませぬ。トイレや売店、看板、何もない観光地を見学するほうが想像力が膨らむかもしれません。

旅行とは地図をみてコースを調べて、所要時間を出して、用意する物、宿を調べて電話で聞くなど、旅行までの前調べも楽しいものです。カーナビに行き先を登録して案内されるが間々の旅行は確実に目的地に案内してくれますが、何か空しいものですね。

また観光地を分刻みで向かうのも普通の光景ですが、一歩引いて考えると時間にゆとりのコース計画もあります。旅行先で2～3時間のゆとりがあるということはのんびり見学でき、のんびり昼食したり、のんびりお茶タイムができます。

宿（ホテル、旅館など）は、いまやどこもきれいなお部屋で食事が豪華で、逆に言うところへ泊まっても当たり障りのない環境で魅力がないですね。昭和が感じられる風情や宿の環境もいいかもしれません。

時間を気にせずゆとりのマイカー2泊3日旅行コース 用意する物→クーラーBOX

1日目 金沢発8:00 ~ 小矢部J C 8:15 ~ 五箇山I C 8:45 ~

9:00「道の駅白川郷」（白川村飯島）で休憩。白川村地元のお土産をさがしてみよう。

10:00景観名所「荻町城址」（城山展望台）（白川村荻町）荻町の合掌造り集落を一望できる絶景撮影スポット。絶景を眺めて記念撮影しよう。

10:30観光名所「荻町合掌造り民家園」室内に上がりのんびり見学しよう。白川村にあった合掌造りの民家を移築してあり、室内の柱の太さや囲炉裏の数や天井の高級感など見どころがあります。室内をのんびり見学して思わぬ見どころを発見しよう。

12:00観光名所「世界遺産荻町合掌造り集落」を見学。通から裏の道をのんびり散策して昔の面影をさがしてみよう。

昼食、白川村地元の定食を食べてみよう。（岩魚定食、ほうば味噌定食、飛騨牛定食、とうふステーキ定食など）

2:30パワースポット「帰雲城趾碑」（白川村保木脇）見学。のんびり想像してみよう。

3:00「道の駅飛騨白山」（白川村平瀬）休憩。足湯にのんびり入ってみよう。

3:30無名穴場自然水平瀬鉱山跡「朝霧の水」（白川村長瀬）自然水を汲んでみよう。

3:45キャンプ場「ひらせ温泉キャンプサイト」（白川村長瀬）見学。林間サイトをのんびり散策してみよう。

4:30穴場温泉地「平瀬温泉」（白川村平瀬）到着宿泊。平瀬地区は温泉が引いてある宿が多いです。夕方から温泉露天風呂に入りくつろいでみよう。

<↑のコースで時間にゆとりがあるので途中のんびりコーヒータイムもしよう>

## 2日目

9:00平瀬の宿出発

9:10観光場所「旧遠山家民俗館」（白川村御母衣）昔の生活を想像してみよう。遠山家は昔から同じ場所に建っているそうです。

10:00観光場所「MIBOROダムサイドパーク」（白川村牧）荘川桜の写真展示を見てみよう。

10:40観光名所「御母衣ダム」（白川村牧）見学。堰堤から景色を観て記念撮影しよう。岩と粘土でできたロックフィル式ダムです。

11:20観光名所「荘川桜」（荘川町海上）見学。案内板を読んで。記念撮影しよう。

11:50「レストランみぼろ湖」（荘川町中野）昼食。荘川町地元の定食を食べてみよう。（朴葉みそ定食、みぼろ湖定食、若鶏のみそ焼き定食など）隣にキャンプ場があるので林間サイトをのんびり散策してみよう。

1:30観光場所「牛丸ジュラ紀化石」（荘川町牛丸）見学。七間飛吊橋も渡ってみよう。（記念撮影）

2:15観光名所「荘川の里」（荘川町新淵）のんびり古民家を見学しよう。旧荘川村の古民家を移築してあります。

3:30「道の駅桜の郷荘川」（荘川町猿丸）休憩。荘川町地元のお土産をさがそう。



4:00 荘川 I C ~ 高山市内 5:20

5:30 高山市宿（ホテル、旅館）到着。

<↑のコースで時間にゆとりがあるので途中のんびりコーヒータイムもしよう>

### 3日目

8:20 宿出発

8:30 観光名所 高山の「朝市」、「古い町並み」をのんびりと散策しよう。

12:00 市内で昼食。高山地元の味を食べてみよう。（飛騨牛ステーキ、高山ラーメン（中華そば）など）

1:10 観光名所「飛騨の里」（高山市上岡本町）のんびり古民家を見学しよう。

2:30 高山市出発、帰路。

<↑のコースで時間にゆとりがあるので途中のんびりコーヒータイムもしよう>

.....

### ゆとりの旅行

ゆとりの旅行か。旅先でコーヒータイム。時間を気にせずしたいものだ。それとのんびりか。のんびり観光地見学、次回からそうできるといいのだが。そういえば昨日御母衣ダムを見学していたマイカーは、ゆとりののんびり旅行をしていたのか。していたのだろう。確かに70代以上の夫婦が多かったようだ。

### 毎度の状況

9月16日（祭日月）10:04、チャイムが鳴った。（ドアの音）ガチャガチャ！。

北脇：開けてよー。

矢口：（・・・）

### 解説

「白川郷をのんびり旅行する矢口隼人の休日」は、久しぶりに休日を過ごす矢口隼人の旅行をベースにフィクションを交えた小説である。女性の溢れる愛情は紙一重で執念怨念であることが分かると思う。

2013 9/18 執筆

2013 9/20 脱稿 23P